

SHIRAKOBATO

しらこぼと



1999. 9

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 185

日本野鳥の会 埼玉県支部

海外のフィールド図鑑に挑戦

小荷田 行男 (浦和市)

はじめに

旅行や出張で、海外へ行く機会が増えています。海外でのひととき、フィールドに出て樹々や花、鳥やけもの、昆虫などを見る時間を持つことは、ぜいたくのひとつかも知れませんが、このようなとき、あらかじめ国内で現地のフィールド図鑑を入手し、予習をしておくことでフィールドで様々な発見があります。ここでは、英語など外国語がにがてな方を対象に、海外のフィールド図鑑に挑戦する方法を述べます。

1. 英米のフィールド図鑑の歴史と特色

C. ダーウィンや A.R. ウォーレス以来の博物学の伝統、王立キュー植物園をセンターとするプラント・ハンターの活躍など、イギリスの生物学は、その広大な植民地の自然資源を、いかに有効に利用するかに重きが置かれていました。そのため植物図鑑や動物図鑑は現場で種の違いを見分けるポイント等、現場実践型で編集されるようになりました。産業革命を経験したイギリスは、その工業化により、本国にわずかに残された自然も次々と改変されて行きました。19世紀に国民国家を実現し大衆社会を実現した結果、一般国民の間に自然散策や、自然観察への関心が高まりました。現場実践型の生物図鑑の伝統と、大衆の自然に関する関心が融合し、現場で使いやすく幅広い層に受け入れられるフィールド図鑑が、20世紀初頭から数多く出版されるようになりました。

イギリスの伝統を引き継いだのが同じアングロ・サクソン文化を基盤として持つ USA です。H. フォードによる自動車の大量生産を実現した USA も、イギリスに続いて大衆社会が実現し、一般国民に自然に関する興味が20世紀初頭から生まれてきました。

このような背景を持つ英米のフィールド図鑑は、例えば樹木の場合、

- ・分類別 ・紅葉、黄葉
- ・葉の形 ・冬芽
- ・幹 ・実

・花

など、現場ですぐ使える複数の索引がついているのが特色です。

2. 英語がにがてな人のフィールド図鑑の使い方

英米のフィールド図鑑の特色は前述しました様にその豊富な索引です。例えば「葉の形」の索引は、葉の形の特色を示す絵や記号、又は葉の写真が掲載されています。これを使えば文字の意味がわからなくても該当の種にたどり着くことができます。このようにその豊富な索引を駆使すれば、絵や記号、写真だけでも、相当なところまで絞りこめるのが英米のフィールド図鑑の最大の特色です。もっと詳しくその絞り込んだ種について知りたいときは、辞書を片手に該当項目だけを読めば済みます。

フィールド図鑑には、種名として英語名と同時に、ラテン語で書かれた世界共通の学名が書かれています。日本語のフィールド図鑑においても、標準和名と呼ばれる日本語名と共にラテン語で書かれた学名が書かれています。鳥のフィールド図鑑でしたら、英語のフィールド図鑑の絵又は写真を、日本語のフィールド図鑑の絵又は写真とあわせて同一種であることの見当を付けます。次に両フィールド図鑑の学名で確認し、同一でしたら標準和名を書き込んで行きます。ヨーロッパの鳥類フィールド図鑑でしたらある程度標準和名が予想できます。また両方のフィールド図鑑にある学名索引を対象しながら、標準和名を効率的に記入してゆく方法もあります。

3. 学名とは

ヨーロッパは狭い地域にそれぞれ民族固有の言語が交錯している世界です。生物学がルネッサンス以来発展してきたヨーロッパでは、各民族の言語で生物の名前を呼んでいたのでは、言語の壁があり交流できません。そこで諸言語共通の呼び方として使われたのが、カトリック教会の公用語であるラテン語で表記する方法です。

学名は原則的にラテン語で表記し、世界共通です。しかし、植物、動物、菌類などの各生物の分類も部分的には国により、学会により、学者たちのグループにより必ずしも一致していません。例えばある国ではひとつの種としてひとつの学名しか持たないと考えているひとつの生物群も、国が異なればふたつの種として別の学名を与えていることもあります。同じ様な写真、絵なのに二つのフィールド図鑑の学名が異なる場合は、種名の与え方が異なると理解して下さい。

4. 英語以外のフィールド図鑑の使い方

(i)ヨーロッパ諸言語

ヨーロッパ諸言語で書かれたフィールド図鑑の使い方は、基本的に英語がにがてな人のフィールド図鑑の使い方と変わりありません。

(ii)北京官話（中国語）

中国においても台湾においても公用語は北京官話です。北京官話とは中国語の中で広東語、北京語などと呼ばれる方言のひとつ北京方言を公用語と定めているとの意味です。文化大革命以降、中国は簡化字と呼ばれる略字を公式文字として採用しました。一方、台湾は同じ北京官話であっても省略しない繁体字を公式文字として採用しております。このため日本人が見れば日本式の漢字、繁体字、簡化字の三種類の漢字があることとなります。

北京官話（繁体字）や北京官話（簡化字）で書かれたフィールド図鑑を見る場合、少なくとも種名を確認したいのであれば、ラテン語記述の学名が書かれていますから、それをキーとすればよいでしょう。北京官話が全く理解できなくても、学名を日本のフィールド図鑑で対応を調べ、絵や分布図などが利用できます。

5. 日本語で書かれた海外のフィールド図鑑

日本語で書かれた海外のフィールド図鑑は次の二種類があります。

(i)海外のフィールド図鑑の日本語訳

海外のフィールド図鑑の日本語訳で多く刊行されているのは千島列島、サハリン、カムチャッカ、沿海州、シベリアなどユーラシア大陸北部の鳥類です。これは主に北海道の鳥類学者と旧ソビエト、ロシアの鳥類学者の相

互交流のたまものです。多くは学術出版として専門家を対象に刊行されたもので、書店で入手できるのはごく少数です。

(ii)日本人著者による海外のフィールド図鑑

近年、海外渡航者の大幅な増加により日本人による日本語の海外のフィールド図鑑も出版されるようになりました。鳥やけもの、樹や花もあります。

6. 海外のフィールド図鑑の探し方

国内において海外のフィールド図鑑を捜すには次の方法があります。

(i)インターネット

(ii)自然関係の雑誌の書評

(iii)自然関係の博物館、公立図書館

(iv)自然関係の研究機関、大学

(v)自然関係の洋書店、古書店

いずれもこまめに訪れる事が出会いを増します。洋書の場合、輸入数が限られていますので、ある時に購入することをお勧めします。外国語のフィールド図鑑はその言語が堪能である場合を除き、一部の情報しか読み取れません。このため購入するときは実際に手に取ってチェックする事をお勧めします。

おわりに

外国語で書かれたフィールド図鑑は、たとえ言葉がわからなくても絵や写真、分布図などをながめているだけで新しい発見が数多くあり、楽しい時間が過ごせます。海外へ行かなくても海外のフィールド図鑑を入手し楽しんでみたらいかがでしょうか。



カット・五十嵐貴大

マダラチュウヒ出たぞ!

榎本 秀和 (鴻巣市)

「飛行場でハリアー……」と言っても戦闘機が飛んできたわけではない。先日の三宅島探鳥会のおり、三宅島空港でマダラチュウヒ (Pied Harrier) ♂1羽を観察したので報告する。

5月9日午前9時15分ごろ、空港の駐車場で休憩していると、駐車場北側の空にふいに現れる。比較的低空を、カラス1羽 (のち2羽) のモビングを振りきりながらゆったりと旋回。50mほどの距離で、背面腹面ともにじっくり見る事ができた。全身が真っ白で、初列風切の黒が目立つ。背面も全体が真っ白く見え、黒い錨型の斑がくっきり。ほんとうに美しい個体であった。

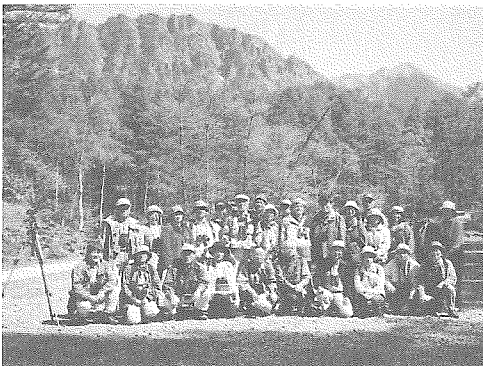
その後、滑走路に沿って南側に低く飛び、滑走路に降りるように見えなくなる。時間にして3~4分の出来事であったろうか。私が観察したのはここまで。

10時ごろ? 東京からの飛行機が滑走路に降りたとき、滑走路付近から飛び立ったところを再び私たちのメンバーが発見。

さらに13時ごろ、空港から西側の山林の方へ飛んで行く姿を別のメンバーが目撃する。

同行者の中に、これまで国内外でマダラチュウヒを観察したことのある者が私を含め3人いたが、この個体は明らかにマダラチュウヒと確認した。写真はない。

アカコッコ館によれば、翌日には見られなくなったという。1987年以来12年ぶりの記録とのことである。



戸隠飯綱高原探鳥会

戸隠飯綱高原探鳥会に参加して

前川 佳子 (坂戸市)

新緑の頃になると、なぜか心がときめいてきます。以前は喰い気で、勝浦や焼津とかの初鰹でしたが、ここ2~3年は、高尚な(?)野鳥観察となりました。出勤前夜は、過去の資料に目を凝らし、今年はどんな鳥に出会えるかとの期待と不安が混じり合い、寝不足になりがちです。

今年も探鳥会は、一の鳥居からのスタート。最初にヒガラ、ニューナイスズメの歓迎を受け、少し歩くと、キクイタダキ、キビタキ、その他カラ類が出現。上空にはアマツバメ、ノスリの飛行、そーっと目を下に落とすと足下に野草が可愛い花を付けていました。

昼食後、湿地を抜け法師池へ。湿地では、カッコウ、オオヨシキリ、アカハラ、はるか落葉松の天辺にイカルが。池にはカイツブリの親子が4羽、2羽の雛が親の背に乗り戯れている様は、心暖まる風景でした。鏡池に立寄り、宿に着くやまた宝光社へ。美声あれど姿なきオオルリを探すのにひと苦労。探し当てたのは、さすがベテランのH夫人。一同感激。今年は比較的多い鳥の出現で、かなり満足。

楽しい懇親会は、ビールに地酒、岩魚の塩焼き、ソバ粉の宝蒸し、共に絶品。ソバの食べ放題に満腹、満腹。恒例の自己紹介もユーモア溢れるものがとびだし、和やかなひと時を過ごしました。菱沼リーダーの貴重なビデオを鑑賞して、就寝。

翌朝、3時半、オオジシギのディスプレイ飛行を見に越水ヶ原へ。薄暗闇での轟音は迫力充分でした。朝食をはさみ、森林植物園での探鳥は、子育て中のカルガモ、巣作り中のコサメビタキをはじめキビタキ、クロジ、コルリ、サンショウクイ、アオジ、ノジコ、ウソ、カケス、カラ類、キツツキ類の出現、トケン類オールスタッフの声援も受けました。ささやきの小道を通り、牧場では、上空に、ハチクマ、ハリオアマツバメが飛び、雑木林にコムクドリ、キビタキ、アカゲラの時間をかけたサービスがありました。

参加者からの要望が多かったキバシリ、マミジロ、フクロウは、残念ながら、アポイントが取れず、次回、乞うご期待!! となりました。約60種の鳥の出現に参加者全員大満足でした。



オオルリ (菱沼一充)

浮島湿原探鳥会

原島 浩 (浦和市)

探鳥会に本格的に参加するようになったのは平成10年からで、主に浦和の三室でいろいろな鳥を観察して楽しくなりました。今年からは少し行動を広げて色々な所への探鳥会に参加できればと思っていましたので、浮島湿原探鳥会への参加を楽しみにしていました。

当日は天候に恵まれ、広い湿原の中は太陽の強い陽射しを受け、暑いほどでした。期待したヨシゴイは現れませんでした。オオヨシキリ、コヨシキリ、セッカ、コジュリンの囀りを聞きながら歩く気分は、大変心地よく感じられました。初めて出会ったコジュリンの鮮やかな頭の黒い色、コヨシキリの可愛い横顔が印象に残りました。

観察種数は27とやや少なく感じられましたが、新しい出会い(人と鳥)を求めての参加なので大変楽しく有意義でした。積極的に次の探鳥会へ参加する気持ちになりました。



コジュリン (菱沼一充)

ホッと一安心

山口 千尋 (狭山市)

先日(5/23)の入間川定例探鳥会で、リーダーの方が「毎回見られるカワセミが、ここ2~3ヶ月一度もみられない」と話しておられました。私も近所ですのでよく川を訪れるのですが、その通りで全く見かけることはありませんでした。

というのもカワセミの営巣地があった所に学校建設の工事が始まり、しかももう一方の営巣地は先々月土砂崩れがあり、こちらも護岸工事の最中なのです。探鳥会に参加している方は、「もう巣がなくなっているのでは?」とがっかりしていました。

と、そんな折り、本日(6/2)の昼頃、1羽ですが、カワセミを発見したのです。オオヨシキリを探していると、キラッと光る背中…。木の枝にとまって大空を仰いでいました。ホッと私も一安心。あまりにうれしかったのでペンをとりました。



カワセミ (蟹瀬武男)

入会顛末・私の場合

藤掛 保司 (川越市)

栃木県宇都宮市で単身赴任生活を送っていたころ、五十肩になってゴルフもテニスもできなくなってしまい、それまでは風呂嫌いだったのに、温泉で肩を暖めようと、土曜日曜には、車であちこちの温泉めぐりを始めました。

塩原温泉郷の箒川沿いの露天風呂に入ったとき、釣り人や我々がいても平気で、綺麗な野鳥が、川や山に姿を見せてくれたのが、記憶に残りました。

やがて川越市の自宅に戻り、娘が狭山市の

入間川で開催される探鳥会というものに参加するというので、車で送って行き、ついでに私も散歩のつもりで参加しました。

リーダーが双眼鏡を貸してくれるというのにお断りしてひたすら歩き、新富士見橋近くにきた時に「シラサギが飛んできた」と叫んだら、リーダーが「コサギですね」と…。返す言葉もない、初の探鳥会体験でした。

娘が、スコープを購入したのはいいけれども、「重いから、お父さん持ってよ!」というので、2回目は、ただの担ぎ屋としての参加でした。

そんなことが重なるうちに、あの箒川沿いの「綺麗な野鳥たち」が、実はカワセミ・キセキレイ・カケス等々だったことが分かるようになり、娘に遅れること2年で入会し、一家に2部ずつの野鳥誌と支部報が届くようになりました。

その後、娘は嫁いでいき、我が家に届く支部報などがまた1部ずつになったのは、時の流れということでしょうね。

ツバメが巣を作りました

外園だけの(春日部市)

家の仕事場が杉戸に移って6年目、やっとツバメが巣を作りました。回りはたんぼ。ツバメもたくさん飛び回っているの、待っていたのです。6月8日に作り始めて2日間完成。2、3日目に産卵、7月1日ごろかえったようです。16日ごろからはばたく練習。巣立ちまでの間、たくさんのツバメが飛び交い、親でないのもエサ運びしているようでした。月曜日(18日)には飛び立っていきました。一羽、夜に帰ってきたようでした。



7月16日 外園だけの

今さら聞けない質問コーナー

Q: 浮島湿原探鳥会のおり、我孫子市鳥の博物館を見学する機会がありました。館内に、系統の古い順に世界の鳥の剥製を展示しているコーナーがあったのですが、系統が古いとか新しいとかいうのはどのようなことなのでしょうか。(蓮田市・長嶋宏之)

A: 埼玉県支部の探鳥会で配布しているチェックリストをご覧ください。カイツブリ目から始まりスズメ目で終わっています。この配列はウェットモア(Wetmore)の分類と呼ばれるもので、現行の鳥類の分類方式としては最も一般的なものだと思います。埼玉県で記録のある野鳥に限ればカイツブリ目が始まりになります。日本全体を見た場合の始まりはアビ目、世界の鳥を見た場合の始まりはダチョウ目ということになり、いずれの場合もスズメ目で終わります。

この分類方式による配列の順序は、起源の古い系統の鳥から始めて新しい系統の鳥で終わるというもので、ご質問の剥製の配列もこの分類方式に従ったものと思われる。

さて、前置きが長くなりましたが、系統が古い、起源が古いというのは、「化石等によって古い時代に地球上に出現していたことがわかり、独自の進化の過程をたどって現代に至っている」という意味になるのだらうと思います。これに対し、スズメ目の鳥は最も進化が進んだ新しいグループといわれ、世界の鳥類の種の60%がこの目に属するとされる典型的な「とり」の仲間です。

ところで鳥類の分類にはウェットモアのほかにもいくつもの方式があります。私が小学生のころ使っていた図鑑の分類表は、燕雀目エンジャク鴉科から始まり鶉目ジュンイ雉科で終わるハータート(Hartert)の分類によるものでした。「日本鳥類目録改訂第5版」でウェットモアの分類が使われるようになって、日本の場合、種としてはアビから始まりワタリガラスで終わるので、「アで始まりワで終わるなんて、鳥も五十音図と同じだな」と思った記憶があります。(榎本秀和)

今月は「野鳥情報」は休ませていただきました。

白頭鷺の英名講座 (第24回)

コシャクシギ Little Curlew

または Little Whimbrel

または Least Whimbrel

この珍鳥がお膝下の田圃に出現。大挙してバーダーが観察を楽しんだ。私も便乗して吾がLife List (生涯の探鳥記録) に一種追加することができた大物である。

和名の「小杓鷺」は、明らかに嘴の形状から命名された、いわゆる「シャクシギ」のうち、小型であるから「コシャクシギ」に違いない。「シャクシギ」には大、中、小の三種類があり、それぞれ、

ダイシャクシギ Curlew

または Eurasian Curlew

チュウシャクシギ Whimbrel

という。Curlewとは、もともこの鳥の鳴き声に由来する言葉で、英語の国民には「カー・ルー」と尻上がり聞こえるらしい。それに“Cur-lew”を当てはめたものであり、特に意味は無い。

チュウシャクシギのWhimbrelも、声の音調が“Whim”のように聞こえ、「小」の意味の接尾辞の“brel”をつけたものらしい。したがってこれもとくに意味はない。

コシャクシギはこの両者の小型であるところから、冒頭に述べたようにLittle curlew (小型のダイシャクシギ) または

Little Whimbrel (小型のチュウシャクシギ) とされている。

この場合、形状から命名した和名の方が分かり易いと言えよう。では「ホウロクシギ」は、同じ「柄杓型」の下へ湾曲した嘴なのに、何故「シャクシギ」に入らず「焙烙シギ」なんだろう？

英名では一応“Curlew”の語を用い、Far Eastern Curlew, すなわち「極東のダイシャクシギ」ということになっている。

因みに「焙烙」とはなんぞや？ お若い方にはなじみが無いかも知れないので辞書から引用すると「素焼きの平たい土鍋。火にかけて食品を炒ったり蒸し焼きにしたりにするのにちいる。」(広辞苑)

ホウロクシギと焙烙の関連は、よくよく考えてみると、焙烙のカーブとあのシギの嘴の下方への垂れ具合に共通性があるのかな？ どなたか確実なところをご披露いただきたい。(松井昭吾)

はみ出し行事案内

新潟県・湖、池、潟めぐり探鳥会 (要予約)

期日：11月11日(木)～13日(土)

集合：11日午前7時、大宮駅西口代々木ゼミナール前。

帰り：大宮駅西口に13日午後8時頃の予定。

費用：1人32,000円の予定。バス・宿泊・食事・懇親会・保険等。万一過不足の場合、当日精算。

申込み：通常葉書に、住所・氏名・年齢・性別・電話番号を明記して、中島康夫へ。

担当：中島(康)、櫻庭、藤掛

見どころ：2泊3日、貸切バスで朝日池、福島潟、佐潟、瓢湖などをめぐり、ハクチョウ、ガン・カモ、ワシタカ、海山の鳥、約80種をウォッチング。

ご注意：宿泊は男女別の相部屋です。個室はご用意できません。

表紙の写真

ムギマキ (スズメ目ヒタキ科ヒタキ亜科キビタキ属)

写真撮影：菱沼一充(板橋区)

英名 Mugimaki Flycatcher、学名 *Ficedula mugimaki*。ともに「ムギマキ」という和名が入っている。ちなみに、漢字で書くと「麦時」そのまま。

繁殖地、中国東北部・サハリンなど。越冬地、中国南部・ボルネオ島など。日本には旅の途中、春と秋に少数が立ち寄る。

この秋、ツルマサキの赤い実のある林で探してみたい。(解説・編集部)

行事あんない



(何森 要)

特別な場合を除いて予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をおかけください。私達もあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費は一般100円。会員と中学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。夏季は帽子、飲み物必携。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時頃。小雨決行です。

自然保護のため、できるだけ電車バスなどをご利用のうえ、指定の集合場所までおいでください。

リーダー研修会

期日：9月5日（日）
詳細は8月号をご覧ください。

熊谷市 大麻生定例探鳥会

期日：9月12日（日）
集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。
交通：秩父鉄道熊谷9：11発、または寄居9：03発に乗車。
担当：和田、森本、中島（章）、石井（博）、倉崎、松本、中里、高橋、後藤
見どころ：暑さはまだ残りますが涼しい日も多くなり、これからは渡りも盛んになります。しばらくご無沙汰のオオタカやチョウゲンボウも、そろそろ舞い上がってくれるのではと期待しています。

シギ・チドリ類県内調査

期日：9月15日（水・祝）
埼玉県支部では、春と秋の2回、独自にシギ・チドリ類の調査を行っています。特に下記の地点では、より多くの会員の参加・ご協力をお願い致します。
◆秋ヶ瀬（浦和市・大宮市）
集合：午前9時30分、大久保浄水場の北西角近くの土手の上、グランド入口。
担当：石井 智
解散は昼頃の予定です。調査のため参加費は不要です。雨天でも行います。

松伏町 古利根川探鳥会

期日：9月18日（土）
集合：午後3時、松伏町調整池公園。
交通：東武伊勢崎線北越谷駅東口、東武バス1番のりばよりエローラ行き14：21発に乗車、「JA松伏前」下車、徒歩10分。（駅前から同行案内します）
担当：橋口、大塚、神場、小菅、下川、田邊、本多
見どころ：古利根川でも初めての場所です。5年間観察してきたチュウサギ、アマサギの渡り前のねぐらで、ねぐら入りの時間を狙って、コサギ・ダイサギ・アオサギ・ゴイサギを含め8種、約千羽のサギを観察します。

浦和市 三室地区定例探鳥会

期日：9月19日（日）
集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、浦和市立郷土博物館前。
後援：浦和市立郷土博物館
担当：楠見、福井、手塚、伊藤、渡辺（周）、笠原、倉林、若林、兼元、森、清水、前澤
見どころ：今年は暑い夏でした。鳥たちにとっても暑い夏だったでしょうね。2000年を迎える年に地球は暑い日を迎えたのでしょうか。「鳥も人も地球のなかま」。鳥たちのシーズンに、見沼たん

ぼからのメッセージをひとりひとり感じて見ましょう。

坂戸市 高麗川探鳥会

期日：9月19日（日）

集合：午前9時、東武越生線川角駅前。

交通：東武東上線川越8：24→坂戸にて越生線乗換え8：43発。または寄居7：26→小川町乗継ぎにて坂戸乗換え。JR川越線大宮7：55→川越にて東武東上線乗換え。

担当：藤掛、高草木、石井（幸）、青山、久保田、志村、増尾、佐藤（壯）、吉田（時）、林（久）、

見どころ：昨秋の探鳥会で上空通過したサンバの数と、飯能市・天覧山で観測調査していた人のデータ数と同じでした。今年は携帯電話で交信し、所要時間とルートを確認してみましょう。コースの終り近くではカワセミ、セキレイたちを見ながら昼食を楽しめますよ。

タカの渡り調査

期日：9月23日（木・祝）

恒例の調査です。一日空を眺めているだけで貴重なデータが得られます。初めての方もお気軽にどうぞ。雨天（小雨でも）中止。この場合9月26日（日）に延期します。調査のため参加費は不要です。

◆天覧山（飯能市）

集合：午前9時から正午までの間、ご都合の良い時間に山頂展望台へお越し下さい。

交通：西武池袋線飯能駅から徒歩30分。

担当：佐久間

他に下記の地点でも調査を行います。

◆鐘撞堂山山頂（寄居町）

◆丸山山頂展望台（横瀬町）

◆物見山山頂展望台（東松山市、鳩山町）

調査時間は朝から正午過ぎまで。お近くの方はご都合の良い時間にお越しください。

「しらこぼと」袋づめの会

とき：9月25日（土）午後1時～2時ごろ

会場：支部事務局108号室

狭山市 入間川定例探鳥会

期日：9月26日（日）

集合：午前9時、西武新宿線狭山市駅西口。

交通：西武新宿線本川越8：42発、所沢8：36発に乗車。

担当：長谷部、高草木、藤掛、石井（幸）、中村（祐）、山本、久保田、上野

見どころ：秋の鳥見の楽しみのひとつは、渡り途中の鳥たちを見つけること。常連さんたちに混じって意外なお客さんが来ることもある。

長野県・戸隠飯綱高原探鳥会（要予約）

期日：10月23日（土）～24日（日）

集合：23日午前9時10分、JR長野駅改札口前

交通：長野新幹線「あさま503号」（東京7：00→上野7：06→大宮7：26→熊谷7：40→高崎7：54→長野8：50）、または「あさま1号」（東京7：32→大宮7：56→長野8：57）

費用：10,500円の予定（1泊3食、現地バス代、保険料など）。万一過不足の場合は現地精算、集合場所までの交通費は各自負担。

定員：30名（先着順、県支部会員優先）

申込：往復葉書に住所、氏名、性別、年齢、電話番号を明記して、菱沼一充 まで。

担当：菱沼、北川、大坂

見どころ：紅葉真っ盛りの飯綱、戸隠高原。黄金のカラマツ林を歩きながら小鳥達を探します。マミチャジナイやムギマキに会えたら最高です。

「行事案内」は7ページにもあります。

ワンポイント・アドバイス

まだ暑い日が続きますが、探鳥は長袖・長ズボンが原則です。半袖・短パンの場合は、やぶ等に踏み込まないように、特にご注意ください。ツツガムシによる被害が最も出やすい季節です。

行事報告

5月15~16日(土~日) 神泉村 城峯公園

参加: 15名 天気: 雨

カワウ ゴイサギ アマサギ アオサギ カルガモ トビ キジ コチドリ キジバト ツツドリ ヤマセミ アオゲラ アカゲラ コゲラ ツバメ イワツバメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ クロツグミ ヤブサメ ウグイス センダイムシクイ キビタキ オオルリ エナガ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ イカル スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシブトガラス ハシボソガラス (40種) 集合時刻が近づくにつれ雨模様になり、先が心配された。宿のマイクロバスで移動する間は雨が降り、降りて探鳥の間は小康状態と綱渡りの第一日目だった。翌日は、何とか雨も上がり、明け方のバードコールのシャワーも期待通り。下久保ダムでは上空をヤマセミが大旋回し参加者全員も大仰天。終わってみれば満足の探鳥会だった。(橋口長和)

5月29~30日(土~日) 長野県戸隠・飯綱高原

参加: 27人 天気: 晴

カイツブリ アオサギ カルガモ ハチクマ トビ ノスリ イヌワシ タカsp オオジシギ キジバト ジュウイチ カッコウ ツツドリ ホトトギス ヒメアマツバメ ハリオアマツバメ アマツバメ カワセミ アオゲラ アカゲラ コゲラ ツバメ イワツバメ キセキレイ サンショウクイ ヒヨドリ モズ ミソサザイ コルリ トラツグミ クロツグミ アカハラ ウグイス オオヨシキリ センダイムシクイ キクイタダキ キビタキ オオルリ コサメビタキ エナガ コガラ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ ゴジュウカラ メジロ ホオジロ ノジコ アオジ クロジ カワラヒワ ウソ イカル ニュウナイスズメ スズメ コムクドリ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (60種) バスを降りると清々しい空気が満ちあふれていた。幸い蟬時雨も少ない。すぐにキビタキ、ニュウナイス

ズメが見つかり、はるか上空にイヌワシ、ノスリと幸先のよいスタート。水場にはカラたちもやって来ていた。台座法師池では、微笑ましいカイツブリの親子。翌日早朝はオオジシギのディスプレイ、小鳥たちのコーラスを楽しむ。朝食後、再び植物園へ。目の高さで、クロツグミ、サンショウクイが見られた。ささやきの小道をキャンプ場まで歩く。おいしい竹の子汁が待っていた。皆さん少々疲れたのか、帰りのバスでは熟睡。どなたのお顔も満足そうだったので一安心。(菱沼一充)

6月1日(火) 栃木県 奥日光

参加: 38人 天気: 晴

マガモ トビ コジュケイ カッコウ ホトトギス アマツバメ アオゲラ アカゲラ コゲラ ヒバリ イワツバメ キセキレイ セグロセキレイ カワガラス ミソサザイ コルリ ノビタキ ウグイス メボソムシクイ エゾムシクイ センダイムシクイ キビタキ サメビタキ コサメビタキ エナガ コガラ ヒガラ シジュウカラ ゴジュウカラ ホオジロ ホオアカ ニュウナイスズメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (36種) 快晴に恵まれ、イワツバメの群飛に送られて湯元を出発。早々にキビタキ、センダイムシクイ出現。先に進まない。湯ノ湖ではコルリの声。湯川ではミソサザイ、キビタキ、アカゲラ、アオゲラ、遠くにカッコウ、ホトトギスの声。戦場ヶ原ではノビタキ、アカゲラ。終点の光徳牧場ではニュウナイスズメで合計36種。帰りのバスでは全員グッスリおやすみ。(櫻庭 勇)

6月5日(土) 茨城県 浮島湿原

参加: 26人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ゴイサギ アマサギ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ トビ オオタカ コアジサシ キジバト ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ウグイス オオセッカ コヨシキリ オオヨシキリ セッカ メジロ コジュリン スズメ ムクドリ ハシボソ

ガラス (27種) バスを降りると、小鳥たちのコーラスがアシ原の中から風に乗って聞こえてくる。丁寧に鳥影とさえずりをチェックしながら、参加者それぞれに初夏の霞ヶ浦の風情を楽しんだ。帰りには我孫子市鳥の博物館を見学して有意義な一日となった。(榎本秀和)

6月6日(日) 北本市 石戸宿

参加: 65人 天気: 晴

カイツブリ カワウ カルガモ オオタカ コジュケイ キジ バン キジバト カッコウ カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ オオヨシキリ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (25種) ハッ橋の近くで抱卵中のカイツブリをじっくり観察した。池が赤錆色に汚濁していてかわいそうな気がした。高尾の池では、バンとカイツブリの親子を観察。桜堤の下の湧水池では頭上をオオタカが青空をバックに舞った。猛暑体験の後は冷房の効いた部屋で鳥合わせと写真鑑賞。(岡安征也)

6月6日(日) 浦和市 民家園周辺

参加: 87人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ヨシゴイ ダイサギ アオサギ カルガモ チョウゲンボウ キジ バン オオバン コチドリ コアジサシ キジバト カッコウ ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ コヨシキリ オオヨシキリ セッカ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (31種) 天気はよいが朝から暑くて大変。真夏のような暑さにかかわらず、80名を超える参加者があり、長〜い列ができた。昨年に続きコヨシキリが見られ、電線でカッコウが鳴き、ホバリングするチョウゲンボウに歓声が上がった。バンとカルガモの親子も見られ、鳥たちは子育てに懸命。大きな口をあけて木陰で休んでいたカラスが印象的。(手塚正義)

6月13日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 51人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ オシドリ カルガモ カモsp オオタカ コジュケイ キジ バン キジバト カッコウ ヒバリ ツバ

メ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ ウグイス オオヨシキリ セッカ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (29種) Nリーダーが早朝確認した明戸堰のオシドリ2羽を楽しみに出発。猛暑のためか途中の鳥影は少なく、まるでガマン大会の様。明戸堰では、お目当てのオシドリは数人の人しか見られなかったが、ほほえましいバンのファミリーが見られ、また、低空で飛来したカワウの大群には皆驚嘆の声を上げた。(和田康男)

6月20日(日) 浦和市 三室地区

雨のため中止。

6月20日(日) 坂戸市 高麗川

参加: 34人 天気: 曇後小雨

カイツブリ カワウ ゴイサギ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ キジ バン コチドリ イカルチドリ キジバト カッコウ ヒメアマツバメ カワセミ ヒバリ ツバメ イワツバメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ ウグイス シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (30種) 小雨の朝、ヤマセミを求めて必ずバーダーは来てくれると信じ、リーダーとの調整はせずに現地集合。川角駅前では、カッコウが梢に止まり、探鳥会開始の合図。増尾リーダーからヤマセミの営巣状況について報告。ロープが切断されて車が進入し、バーベキュー等で残念ながら子育てを今年も放棄。代役として、多和目橋付近でカイツブリのひな5羽とバンのひな3羽がちょこちょこ親の後を泳ぎ、その姿を見て5年生になった沙緒里ちゃんがかわいいと喜んでくれた。(藤掛保司)



サンショウクイ (蟹瀬武男)

連絡中長

●第13回コニカ・パッケージエイド

日本野鳥の会は、北海道釧路湿原の北部、鶴居村に、1987年、タンチョウ保護を目的とした鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリを開設し、以来、湿原の買い上げや保護区の設置、調査、普及活動等を行ってきました。この活動は、会員の皆様からの会費の一部や、ご寄付等によって賄われてきましたが、中でもコニカ・パッケージエイドによる寄付は、年間活動経費の半分近くを占めています。

コニカフィルムのパッケージを下記送り先に送ると、1枚につき20円が、タンチョウサンクチュアリの活動資金としてコニカ(株)から野鳥の会に寄付されます。今まで過去12年間で約1,870万円、昨年は約134万円になりましたが、ここ数年は減少傾向にあります。コニカフィルムを使ったら、パッケージを捨てないでお送りください。

なお、従来はパッケージの上蓋を送っていましたが、「ミシン目のある側面」を送るように変わりました。対象となるフィルムは、すべての単品商品です。業務用・バック品は除かれますので、ご注意ください。
送り先：〒085-1205 阿寒郡鶴居村中雪裡南
鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ
(電話 0154-64-2620)

●本部のセンターが一部名称変更

8月1日付けで組織改革があり、自然保護に関する調査業務が研究センターに移管され、それに伴い保護・調査センターの名称が「自然保護センター」に変わりました。
市田則孝所長は変わりなく、住所も従来通り下記本部事務局内。直通電話は03-5358-3518です。

現在同センターでは、鳥獣保護法改正の経過を各支部に知らせながら、第8次鳥獣保護事業計画の捕獲許可基準改定に関する意見を取りまとめる作業を急いでいます。

●支部のE-mailアドレス公表の要望に対して
三郷市の会員T氏から、原稿等送付に便利

だろうから、支部にE-mailアドレスがあったら公表してほしいとのご要望がありました。

現在支部ホームページ宛でのメールは、橋口幹事が対応していて、支部としてのアドレスはありません。役員や編集部員はそれぞれ個人的なアドレスを使ってやりとりしていますが、専従事務職員がいない今、誰かのアドレスを支部のアドレスとして公表し、責任ある対応をするのは難しい状況です。ご了承ください。

●毎度おなじみのごめんなさいコーナー

8月号8ページ、行事案内欄、8月8日大麻生定例探鳥会の集合時間「午後9時30分」は「午前9時30分」の誤りでした。夜の9時半に出かけられた方、本当にごめんなさい。

●9月の事務局・土曜と日曜の予定

- 11日(土) 編集会議、研究部会議。
- 18日(土) 校正作業。
- 19日(日) 役員会議。
- 25日(土) 袋づめの会。

●会員数は

8月1日現在3,070人です。

活動報告

- 7月17日(土) 8月号編集作業。
- 7月18日(日) 役員会議(司会：藤掛保司、各部の報告・イベント協力依頼への対応について・その他)。
- 7月24日(土) 8月号校正(大坂幸男・喜多峻次・工藤洋三・藤掛保司)。
- 同日 事務局整理作業(渡辺泰子)。
- 7月26日(月) 8月号を郵便局から発送(倉林宗太郎)。

編集後記

7月から8月にかけてケニアに旅をした。寒くてずっとセーターで過ごし、帰ってきた日本は猛暑だった。不在中はF幹事・O幹事・K幹事らが事務局の仕事を担当してくれた。もう安心して旅に出られる。(海)

『しらこぼと』1999年9月号(第185号) 定価100円(会員の購読料は会費に含まれます)
発行人 中島康夫 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
〒336-0012 浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号 郵便振替 00190-3-121130
インターネットホームページ <http://www.bekkoame.or.jp/ro/wbsj-saitm/>

住所変更・退会などの連絡先 〒151-0061 渋谷区初台1-47-1 小田急西新宿ビル1階
(財)日本野鳥の会会員センター業務室 TEL 03-5358-3511 FAX 03-5358-3608

印刷 関東図書株式会社 (本誌掲載記事は上記ホームページに転載されることがあります。本誌から、またはホームページからの無断転載は、かたくお断わりします) 再生紙使用